

有關日語變化表達句“<動名詞>ni/to naru”之研究

—從句法結構與語用論之觀點—

蘇文郎*

摘要

本研究的探討對象為日語日語變化表達句“<動名詞>ni/to naru”的句法結構與語義及語用特徵。此類型的句子不僅結構特別，它的論元結構(argument structure)不是由動詞「naru」決定，而是該事態動名詞本身的論元結構被繼承(inherited)，並在意義上產生了「變化」與「被動」的交替，呈現了一般句子所看不到的語義轉化現象，另則「naru」也由原先變化動詞轉變為徒具一格的形式動詞(formal verb)。

本研究主要針對1)自動詞/他動詞(連用形)2)名詞—動詞(連用形)3)形容詞(語幹)—動詞(連用形)4)副詞—動詞(連用形)型動名詞詞的

- (I)句法結構及語義構造的複合現象
- (II)「<動名詞>ニ/トナル」的語義特徵
- (III)語義被動化現象
- (IV)與中文的對應關係

並就其內部結構與語法功能、語意等特徵，嘗試導入語彙概念結構(LCS)、格文法、認知語言學之概念加以分析。

關鍵詞：動名詞、變化表現、naru、形式動詞、被動語義轉化、
雙重變化表現

* 政治大學日本語文學系教授

変化構文における「<動名詞>ニ/トナル」の一考察

— 統語的特性と語用論の観点から —

蘇文郎*

要旨

本稿は日本語の変化表現の研究の一環として、「<動名詞>ニ/トナル」形式の構文をとりあげ、形態、統語、意味の三つの側面から考察を試みる。この種の構文において統語的には述語動詞の「ナル」はほとんど固有の意味を持たない形式動詞となり、構文の主な意味は「動名詞」によって規定される。なお、意味の受動化現象も見られる。

本稿の根本的な目標は結果動名詞の形態及び意味構造全般に対する理解を深めていく点にあるため、考察は主に 1) 自動詞/他動詞（連用形） 2) 名詞—動詞（連用形） 3) 形容詞（語幹）—動詞（連用形） 4) 副詞—動詞（連用形）型の動名詞に重点を置いて進めていく。そして以下の項目について

- (Ⅰ) 統語構造及び意味構造における複合現象
- (Ⅱ) 「<動名詞>ニ/トナル」における意味的特徴
- (Ⅲ) 意味の受動化現象
- (Ⅳ) 中国語との対応関係

語彙概念結構(LCS)、格文法、認知言語学の概念を導入して分析する。

キーワード：動名詞、変化構文、ナル、形式動詞、二重変化表現、
意味の受動化現象

* 政治大学日本語学科教授

A Study of Deverbal Nouns in change-of-state sentences of Japanese

—from the viewpoints of Syntax and Pragmatics—

Wen-Lang Soo *

Abstract

The aim of this project attempts to analyze the Deverbal Nouns of Japanese change-of-state sentences from the viewpoints of syntax and pragmatics. These kinds of sentences have particular construction and meaning, — the Argument structure aren't decided by main verbs “*naru*”. Compared to other change-of-state sentences, the most crucial differences is that the Argument structure of compound word inherited which makes the passive and potential meaning scrambled within sentence. Further more the main verb “*naru*” have become formal verb. So, the main discussion of this study includes passive use and the double expressions of change-of-state either in construction or in meaning.

The following patterns are included in this study:

- 1) Intransitive verb/Transitive verb
- 2) Noun-Verb
- 3) Adj(stem)-Verb
- 4) Adv-Verb

Furthermore, an analysis of “Deverbal Nouns” internal structures and semantic features from the viewpoints of Case grammar, LCS, and Cognitive Semantics will also be presents in this study.

Keywords: deverbal nouns, change-of-state sentences , *naru* , formal verb, passive meaning double expressions of change-of-state

* Professor, National Chengchi University Department of Japanese

変化構文における「<動名詞>ニ/トナル」の一考察

－統語的特性と語用論の観点から－

蘇文郎

1. はじめに

1.1. 本研究の背景

筆者はこれまで、日本語の変化表現における諸類型の構文を自動詞文と他動詞文、そして要求される結果語の数及び種類によって9つのタイプ¹に分け、形態、統語、意味の3つの側面から詳しい考察を行い、かなり具体的な成果を見た。その中で結果語の統語的特性と語義特徴の解明の重要性にも気付いて関連する限りで触れてきた。特に、蘇(2006)では、変化他動詞文「XガYヲZ(連用語)スル」における ①格支配と格体制 ②必須補語の結び付きの順序 ③対象と結果の意味役割の対立 などの問題を中心に詳しく考察を行った。しかし、そこでは結果語が動名詞の形で表される「XガY<動名詞>ニ/トナル」形式の構文について詳述するに至らず、また述語動詞「ナル」と「スル」との連続性やヴォイス・受身への意味転換について新たに加えるべきことも発見された故、ここに改めて取りあげることにする次第である。

1.2. 結果動名詞の種類

動詞を名詞に変える名詞化(nominalization)の現象は古来の文法研究において常に取り上げられてきた古いテーマであるが、現在

¹蘇(2001)などで考察したのはⅠ) XがV(変化自動詞) Ⅱ) XがY(名詞)に/とV(変化自動詞) Ⅲ) XがY(連用語)V(変化自動詞) Ⅳ) Y(補文)こと/よう/ということになる Ⅴ) XがYを~化する Ⅵ) XがYをZ(名詞)にV(変化他動詞) Ⅶ) XがY【補文】ようにする Ⅷ) XがYをZ(連用語)にV(変化他動詞) Ⅸ) XがYをNV(名詞+動詞連用形)にする という9つの類型の変化構文である。

でも語形成操作がもたらす意味作用という重要な研究テーマを提供している。動詞を名詞化すると、基本的に2種類の意味が生まれる。出来事ないし行為を表す「デキゴト名詞」と、具体的なものを指す「モノ名詞」である。モノ名詞と出来事名詞の区別は、動詞が名詞化された場合だけでない。広く一般的に、名詞の区別は、意味内容によってこのいずれかに大別できる。モノ名詞は、具体物にせよ抽象物にせよ、モノを表す名詞で、「ある場所にXがある/いる」のように存在を叙述することができる。他方、デキゴト名詞は出来事や活動などを表し、「ある場所で/時間にXがある/起こる/行われる」のように表現できる。

形態的特徴から、日本語の動名詞は大きく派生（転成）語、複合語と漢語動名詞に分けられ、そしてまた次の6つ（A～F）のタイプに下位分類できる。

1) 派生語（転成）

和語系の動名詞

A. 自動詞<単純動詞>→揺れ、晴れ、曇り、騒ぎ、励み、流れ、勝ち、負け、かかわり

<複合動詞>→生まれ変わり、ひきこもり、苛立ち、落ち込み、むき出し、向かい合わせ、うつぶせ

B. 他動詞<単純動詞>→あきらめ、救い、助け、励まし、恵み、

<複合動詞>→据え置き、生け捕り、生き埋め、置き去り、追い越し、打ち切り、乗り換え、繰り返し、使い捨て、浮き彫り、

2) 複合語

C. 名詞+動詞（自動詞）→型落ち、横倒れ、目覚め、前のめり、仲直り、縦揺れ、日焼け、値上がり、横伸び

(他動詞) → 横付け、横倒し、瓶詰め、値上げ、
命取り、輪切り、釘付け、下敷き、
山積み、角刈り

D. 形容詞＋動詞（自動詞）→ 黒焦げ、長生き、早寝早起き、
(他動詞) → 固ゆで、白塗り、薄切り、厚揚げ、
粗挽き、厚焼き、

E. 副詞＋動詞（自動詞）→ 半煮え、二つ割れ、丸潰れ、
びしょ濡れ、大揺れ
(他動詞) → 五階建て、三本締め、上積み

3) 漢語系の動名詞

F. 二字漢語：変更、閉鎖、下落、中止、除籍、退学、禁止、
処罰、勘当延期、出発、増加、減少、喧嘩
三字漢語：不許可、総動員、再検討、急上昇、逆輸入
四字漢語：意識改革、内政干渉、人権侵害、一部上場、
地盤沈下

このように、上記の語例に示されるように、日本語にはこのような派生（転成）や複合による合成語が数多くあり、形態的に、あるいは派生の適用レベルによって様々に分類できる。形態論的分類というのは和語か漢語かといった語種の問題、また動詞の名詞化（派生・転成）か、また名詞や形容詞、副詞と動詞との結合かといった結合タイプの問題が基準になる。そして統語論的にはこれらの動詞は自動詞的なものと他動詞的なもの、及び自他両用のものに分けられる。いずれのタイプにおいてもこれらの例すべてに共通するのは基体動詞そのものが何らかの状態変化を表す意味を本来的に持っているものと、そうでないものに分けられるが、結果語の動名詞が変化動詞句の中に組み込まれているということである。そして意味的にも、統語的にも分析可能である。

1.3. 先行研究とその問題点

複合語の研究においては、“V+V”形式の複合動詞や、“N+V”形式の動名詞に関する語構成論的な考察は従来から数多く行われて来ており、特に項構造や格関係の観点から考察された“N+V（動名詞）”についての研究成果には著しいものがある。一方、結果複合語に属するもの、特に上掲したC~F類型の動名詞は、単なる動詞句からの派生・転成語、あるいは複合語として見られるためか、この、結果状態を表す動名詞の問題は従来の統語的分析では不問にされがちで、「<動名詞>ニ/トナル」全体を変化構文として取り上げて論じたものはあまり見られない。

本稿では「<動名詞>ニ/トナル」構文を包括的に捉え、それを統一的に説明しようとする立場において、具体的な言語事実に基づいて、認知言語学の観点を取り入れて、その成立要因を記述し実証的に分析していきたい。

1.4. 本研究の目的と考察範囲

本稿は日本語の変化表現の研究の一環として、主に上掲したA~Fタイプのコト名詞をとりあげ、それぞれの特徴を形態、統語、意味の三つの側面から考察を試みる。根本的な目標は動名詞の形態及び意味構造全般に対する理解を深めていく点にあるため、考察は次の事項に重点を置いて進めていく。

- (I) 統語構造及び意味構造における複合現象
- (II) 「<動名詞>ニ/トナル」における意味的特徴
- (III) 意味の受動化現象
- (IV) 中国語との対応関係

2. 「結果動名詞ニ/トナル」に関する基本事項と本稿の立場

2.1. 「ナル」の本質：形式動詞化しての用法

本動詞「ナル」が形式動詞化した変化構文として次のような例が挙げられる。

- (1) 堺屋太一経済長官は「しっかりしたプラス成長になった」と述べた。(毎日 2000)
- (2) 99年度がプラス成長となった理由はことし1~3月期の前期比成長率が2.2%、年率にして10%と、4年ぶりに2ケタの伸びになったことが大きい。(同上)
- (3) それが99年度に0.5%の下落となったのは為替相場が円高に動いたことや国際商品市況の軟化のほか、規制緩和や流通革命の進展によるところが大きい。(同上)
- (4) 公共事業は昨年11月の経済新生策や年度初要因などで前期比13.6%増の伸びとなった。(同上)
- (5) 例えば勤め人の介護保険料は今年4月から1人平均2630円(労使折半)の負担増となった。(同上)

ここではこのタイプの構文を形式動詞構文と呼んでおこう。形式動詞構文というのは「ナル」という変化の意味の軽動詞(light verb)を本動詞として、その結果語には変化自動詞(漢語も和語もある)をそのまま名詞に転換した動名詞を取る。したがって、表面的に(1)の「プラス成長になった」、(2)の「2ケタの伸びになった」、(3)の「0.5%の下落となった」、(4)の「13.6%増の伸びとなった」、(5)の「負担増となった」はそれぞれ「プラス成長した」、「2ケタ伸びた」、「0.5%下落した」、「13.6%増えた／13.6%伸びた」、「負担が増えた」に言い換えることができる。

- (1) プラス成長になった = (1)' プラス成長した
- (2) 2ケタの伸びになった = (2)' 2ケタ伸びた
- (3) 0.5%の下落となった = (3)' 0.5%下落した
- (4) 13.6%増の伸びとなった = (4)' 13.6%増えた／13.6%伸びた
- (5) 負担増となった = (5)' 負担が増えた

(1)～(5)と(1)'～(5)'の文は各々下線部の形式が異なっているが同義性が保たれ、(1)～(5)の文の動詞の意味は(1)'～(5)'の文での「成長、伸び、下落、増」などの、広い意味での変化性的名詞によって表現され、これらの名詞と組み合わせられている。「ナル」動詞は実質的意味が希薄で、述語形式を作るための文法的機能を果しているとも見てもさしつかえがない。これは村木(1991)が提出した「機能動詞」²とかなり似た性質を持っている。多くの場合、「～スル」に変えても基本的な意味はほぼ変化しない。いわば変化自動詞の「～ニ/ナル」による表現と少なくとも知的同義性が保たれていると言ってもよかろう。こういった意味的特徴は下の例文に示されているように、後接の文に自動詞表現が交替で使われているということからも裏付けられよう。

- (6) 宇宙開発には失敗がつきものだ。だが、H2では5回続けて打ち上げに成功した後2回連続して失敗した。M5では2回続けて成功し、3回目で初めての失敗となった。なぜか打ち上げ経験を十分積んだはずのロケットで一転して失敗するという繰り返り返しになっている。(毎日2000)
- (7) 17日県警の幹部が記者会見し、これらを認め、謝罪している。「病院関係者が第一発見者であると発表した場合、迷惑がかわかると考え」そんな発表になったという。(毎日2000)
- (8) 配達日：<16年産新米予約、1回コース>9月末に発送の予定をしておりますが、生産地の天候状況により変更となる場合がございます。変更する場合には予めご連絡いたします。(スカイワード2004.9)
- (9) あなたの同性の友人とケンカしたことに関するエピソードを教えてください。旅行は危険？旅先で。おたがいに疲れてい

² 村木(1991:233)：機能動詞は形式的には、動詞として動詞文を成立させ、統語構造のかなめとして働くが、意味的にはそえものとしての存在で、中心は名詞に移され、その結果名詞表現の性能を帯びることになる。機能動詞表現では内容的には、名詞が主役で動詞が脇役である。

て、翌日の行動を決めるときにケンカになった。今 考えれば、たわいもないこと。

escala.jp/job/relation_hakusyo/081014/02.html

- (10) いつ順位相関が頭打ちになったと判断するかですが、+85.6のものが+85.4に下がったときは、頭打ちしたのでしょうか、+84.0になったならどうでしょうか、

www.tokensoft.co.jp/chart242/h90001.htm

この「ナル」と結合する動名詞は典型的には広い意味の変化を表す「コト名詞」であり、和語の連用形名詞（例えば、伸び、下げ、上がり、落ち込み）と漢語（例えば、成長、増加、増、減少、減、下落、増益…など）である。そして構文的には二重変化構文になる。

こういう形式動詞「ナル」による二重変化構文における動詞的表現と平行的に対応する点から、連用形名詞や漢語動名詞による日本語の表現の特色の一つとして位置づけられよう。下の例文(11)(12)からも分かるように、「XガY<結果動名詞>ニナル」は一般変化自動文「X が V」と違って、典型的な二重変化表現の様相を呈している。

- (11) 元琴光喜、ひきこもりになった。(Yahoo スポーツ)

- (12) 奥島座長がけいこ総見で居眠り……。白鵬ら横綱大関陣が稽古を終え、ぶつかりげいこに入ったところでお目覚めとなった。(同上)

「動詞連用形」(11)や複合語形式の「名詞+動詞(連用形)」(12)の結果語動名詞は全体で一つの項をなしている。ここに項構造の融合や、「ナル」の形式動詞としての用法を強くする一側面も見られる。

日本語のこういった特色(特徴)は以下の、「ナル」による二重変化構文と普通の能動文形式が同じテキストで交互に使われる例

(13) (14) から見て取れよう。もちろん、両者には意味的、語用論的相違が存在していると思われる。

(13) このため、08年9月以降の世界的な金融危機が、深刻な通貨危機や国際収支の危機につながってはいない。…韓国、シンガポール及びASEAN諸国で輸出の名目GDP比が比較的高いタイにおいては、前期比でみた実質経済成長率も年率で20%程度の大幅な落ち込みとなった。

(14) 設備投資も大幅に落ち込んだことから、アジア各国で失業率の上昇がみられ、台湾では09年3月に5.8%まで高まっている。
www5.cao.go.jp/j-j/sekai_chouryuu/sh09-01/s1-09-2-2-1.html

例文(13)の「落ち込みになった」と(14)の「落ち込んだ」とは表現意識に多少の差はあるものの、両者が持つ意味特徴、すなわち自然的に起こる変化の意味は歩み寄っていると言えよう。「ナル」は語彙的意味を持たず、もっぱら統語的機能を表す形式動詞として使われていることがはっきりしている。したがって「ナル」の本質を探るには変化動詞としての用法と形式動詞としての用法の二側面からアプローチする必要があると考える。

このタイプの変化自動文における結果語動名詞は次のような語彙概念構造(Lexical Conceptual Structure: LCS)で表すことができる。

- (15) [[BECOME [y BE AT-z]]]
 |
 NP<state>
 項構造: <Th(eme) Re(sult)>
 統語構造: Xガ NPニ ナル
 意味構造: <対象> <結果>

つまりLCSから得られる項構造は2項のもので、[Theme Result

(state)]のようになる。ここで state は開放項でこの値については統語レベルのNP 動名詞から供給される。そして<対象>が X の値を決定するように、動名詞は state の値を完全に決定しているので、統語項とみなすことになる。

述語動詞「ナル」は本来、変化自動詞的意味を持たないため、変化動詞の意味をもつにはNPによる出役が必要であることから、本稿はこの結果語の動名詞を意味的には「ナル」の項、統語的には補部と考えることにする。

3. 動名詞の内部構造と意味特徴

3.1. 内部構造

基本的に理解しておきたいことは「<動名詞>ニ/トナル」構文において統語的には述語動詞「ナル」はほとんど固有の意味を持たない形式動詞となり、構文の主な意味は前接成分動名詞によって規定される。また動詞的意味を保つ複合語動名詞に(16)(17)に示されたように様々な内部関係がみられ、種々の項構造を持つことに注目すべきである。

(16) 名詞+動詞(自動詞) → 型落ち、横倒れ、目覚め、前のめり、
仲直り、縦揺れ、日焼け、値上がり、
横伸び

(他動詞) → 横付け、横倒し、瓶詰め、値上げ、命
取り、輪切り、釘付け、下敷き、
山積み、角刈り

形容詞+動詞(自動詞) → 黒焦げ、長生き、早寝早起き、

(他動詞) → 固ゆで、白塗り、薄切り、厚揚げ、
粗挽き、厚焼き、

副詞+動詞(自動詞) → 半煮え、二つ割れ、丸潰れ、

びしょ濡れ、大揺れ

(他動詞) → 五階建て、三本締め、上積み

3.2. 項構造

では動名詞が持っている項関係³に焦点を当ててみよう。

- (17) (a) <着点 (Goal) と状態、移動変化動詞の組み合わせ>⁴
瓶詰め、格子組み、棚上げ、横付け、横倒し、下敷き、
前のめりなど
- (b) <数量、状態副詞と変化動詞の組み合わせ>
四つ折り、あと回し、半煮え、二つ折れ、たんざく切り、
縦揺れなど
- (c) <性状形容詞と変化動詞の組み合わせ>
黒焦げ、長生き、早寝早起き、固ゆで、白塗り、薄切り、
厚揚げ、粗挽き、厚焼き など
- (d) <主体と変化動詞の組み合わせ>
目覚め、型落ち、仲直り、値上がり

その意味構造は大きく四つに類別できる。そして用例が最も多いのは他動詞的な後項（基体動詞）に対して、前項がその補語（着点や状態を表す成分）や数量、状態副詞（a～c類）に当たる場合である。

結果動名詞の内部構造を、用例を通していくつか見てみよう。

- (18) 大根が輪切りになる。
(19) ワインが瓶詰めになる。
(20) 卵が半煮えになる。
(21) 体が二つ折れになる。

(18) の「輪」は「ナル」ではなく「切る」の項（結果/Result）で

³ 項関係というのは名詞が述語（動詞、形容詞、形容動詞）に対して、主語や目的語の文法関係を結ぶ場合を指す。

⁴ 用例の前に括弧< >で示した但書きは複合語NV内部の文法的関係を示すものである。

あり、(19)の「瓶」は「詰める」の項(着点/Goal)である。そして(20)の「半」は「煮える」の項ではなく副詞である。(21)の「二つ」も副詞である。もともとNは項構造でいえば内項または間接内項に当たるが、注目すべきはもともと結果を表す副詞的要素「輪」、「瓶」「半」、「二つ」が複合語化によって、すっかり必須成分に変身してしまうということである。

3.3. 語彙概念構造による意味分析

このような特徴は日本語の付加詞を含む動詞由来複合語が派生されるもとなる意味構造から説明できる。前述したように、付加詞はそれが表す意味によって、異なる意味述語を修飾すると考えられる。下の22(i)と(ii)を見ればその対立関係が分かる。

(22) 意味述語 複合される付加詞

i) ACT(動作) 様態 道具 着点
前にのめる / 塩でつけこむ / 棚に上げる

ii) BE(状態) 結果(輪の形に切る / 二つに折れる / 半分煮える / 格子状に組む / 黒く焦げる)

結果語は状態(BE)によって選択されるので「結果語+動詞」の複合語は状態を表し、「半煮えの卵」「相手が黒焦げになった」「屋根が格子状だ」のように、「-の」や「-だ」の形で用いられる。

このように複合語が「動作」「状態」のどちらを表すかは、付加語の種類から予測される動詞の意味述語(ACT または BE)が決めているのである。なお「切る」「組む」などのような、ある動作(ACT)がある変化(BECOME)を引き起こす(CAUSE)という使役変化を表す動詞では、(23)のようにその意味構造に動作と状態の両方が含まれている⁵。

⁵ 影山(2001: 258参照)。

(23) [x ACT-ON y] CAUSE [BECOME[y BE[結果状態]]]

結果語の動名詞は構文中において「に格」をとっているが、一般の動名詞とも違う。名詞としての面と動詞としての面を合わせ持った特殊な組み合わせなのである。動詞「ナル」も「動名詞に」を必須項として要求するから変化自動詞と解釈するのが自然であろう。ただし、この場合は他の変化自動詞文と違う振り方をしている。というのは「ナル」は文中の動名詞の意味構造（様態か、それとも結果状態か）を決定する力がなく、動名詞（NV）の中のVがその肩代わりをするのである。これで「ナル」は単なる統語的機能を果たす純然たる形式動詞であることが検証できたと思われる。

3.4. 意味特徴

ではこの表現形式にどういう意味特徴が見られるだろうか。

ここではあらためて、言語表現の背後に存在する言語主体の認知作用を重視する認知言語学の言語観に基づき、「形式が違えば、意味も違う」という観点を前提として考えれば、言語主体による事態把握の仕方に注目し、その認知的メカニズムを考察する必要がある。

例えば(19)の「ワインが瓶詰めになる」は、単にワインを瓶に入れる（つまり単なる移動変化行為）のではない。瓶詰めワイン独特の状態変化が主眼であり、そして(18)の文は単に大根を「輪」の形に切るという動作のありかたが問題ではなく、切ったあとの、「輪の形になった大根」特有の状態変化が主眼であるから、こういう「NV ニナル」の表現形式が用いられると変化行為（作用）と、結果状態の連鎖が際立つことになる。すなわち、この「名詞＋動詞（連用形）」の方には、「に」との結合が強く、動作性より、結果状態性が強調されるという表現意図が見られる。たとえば形容詞的な名詞の「黒焦げの魚、瓶詰めのワイン、千切りの大根」のように対象物（theme）が変化した後の状態を描写し、そのため、動詞連用形の前には結果状態を表す表現がつく。「黒こげ」は魚がこげて黒

くなることであるし、「瓶詰め」はワインが瓶の中に詰められた状態をあらわす。これら日本語の複合語で興味深いのは、単純に名詞と動詞を複合しただけで「結果」という重要な性質を表現できるという点である。

しかしながら、すべての例がそのように分析できるわけではない。まず語彙的な主要部（つまり基体動詞）が変化動詞である場合と、そうでない場合とでは、しばしば意味の違いが観察される。ここで異なる複合語の「NV」における前接語Nの種類に注目してみると、様態や道具のNが複合すると、動作の意味を持ち、結果状態を表すNがつくと状態の意味になるということが観察される。それぞれ具体例を見てみよう。たとえば「下敷き」、「釘付け」、「棚あげ」⁶、「横付け」、などいずれも「名詞＋非変化他動詞」で構成されているが、「XがYに力を加えて、Yをある状態に変化させる」という意味がなく、むしろNV全体が動作の様態や、処置のしかたなどのように多様な意味を表している。前にあげた状態変化を表す類型の構文と区別されるべきである。⁷

3.4.1. 動詞と動名詞の違いについて

動詞が行為の流れを時間的に順序付けて描くのに対して、動名詞は時間の流れを超越して行為全体をひとまとめにして表すという違いが例えば、「体が前にのめる」という動詞と、「体が前のめりになる」という動名詞で説明すれば、「体が前にのめる」というと、体が安定した状態から、不安定な状態になって前の方へ倒れかかるといふ行為から変化、結果へと至るといふ一瞬一瞬の局面、過程を表している。つまり動詞は出来事に関する時間的局面を一つ一つ描写するもので、過去か現在か、あるいは未来かというテンスや開始、進行中、完了などのアスペクトを表示しなければならないし、「誰が何

⁶ 影山（1997：50）では「テレビに釘付けになる」や「重要な問題を棚あげにする」のようなものについては、名詞だけの意味が転義しているのではなく、複合語全体の意味が比喩化しているものとされる。

⁷ 蘇（2006）参照

を」、「何がどう?」という動作の参加者も常に我々の念頭に置かなければならない。それに対して、動名詞「前のめり」は時間を超越する概念なので、テンスやアスペクト情報はすべて捨象され、しかもコトに用いる名付けであるため、「誰が何を」、「何がどう?」といった情報は必ず必要ではない。「体が前にのめった」は行為から変化、結果までの連鎖全体をカバーしている。これに対して、「体が前のめりになった」という「<動名詞>ニナル」になると、体の姿勢変化過程を時間を追って、順々にたどるのではなく、はじめから終わりまでひとまとまりの結果の概念として提示する。「前のめり」は連鎖の結果の部分だけしか備えていない。

このことを説明するには認知文法の有界性の概念が有効と思われる。

3.4.2. 「<動名詞>ニ/トナル」に見られる有界性

認知文法では、象徴的文法観に基づき、名詞、動詞、形容詞といった文法カテゴリーは意味的な概念を用いて定義づけがなされる。たとえば、すべての動詞は「プロセス」を表し、すべての名詞は「モノ」を指示しているとされる。モノとはある領域における「区域」のことである。したがって、名詞は全て何らかの区域を指し示している。このような名詞の種別を考えると、その区域内に何らかの境界が設定されているかどうか、即ちその区域の有界性 (telicity) /非有界性 (etelicity) が重要となる。

この「有界性/非有界性」という区別は、動詞の種別を考える際にも重要である。動詞が表すプロセスは、完了プロセスと未完了プロセスに分けられる。

時間領域においては、前者は有界的であるが、後者は非有界的である。完了プロセスでは、変化の始点と終点が意味スコープの内部に存在しているが、未完了プロセスでは均質な状態がそのような区切りなく連続しており、境界が存在しないと考えられる。

動作の終結点を持つ動詞を「有界動詞」、終結点を持たない動詞を

「非有界動詞」と呼ばれる。

Vendler (1967) の動詞分類⁸では、到達動詞は〔完結・主体変化〕の相を持つ限界動詞であるが、活動動詞は〔活動・未完結〕の相を持つ非限界動詞であった。しかし、活動動詞であっても、目的語を量化することによって限界性を獲得することができるのであり、量化された目的語を持つ活動動詞は、達成動詞と呼ばれるのであった。それは、到達動詞と同様、期限を表す副詞と共に使うことが許されることから分かる。動名詞句に見られる終了限界の解釈は下例のように

(24) 午前 10 時の開店を前に約 400 人が行列を作り、午前中は最大
4 時間待ちとなった。

blog.livedoor.jp/arbu/archives/1155924.html

行為に伴う時間を示す名詞句「4 時間待ち」において、さらに顕著に現されている。「4 時間待ちになった」ということはその動作の期間が終了の限界に到達することを表しているのである。このように両者ともに時間軸にそった行為や期間の推移的な変化を表していると考えられる。

また「揺れる、騒ぐ、関わる、励む、流れる…」のような自動詞も

(25) どう見ても本当は 80 キロはありそうで、超わがままで自己中でドブスで、関わりになりたくない女です。

tak.gger.jp/archives/1339964.html

(26) ではその時に「ようこそ 21 世紀」などと言って英国人は騒いだかと言え、これが実は 全く騒いでいない。私が気付かなかっただけかも知れないが、少なくともどえらい騒ぎにはなっていない。www5b.biglobe.ne.jp/~mizutani/zak02.htm

⁸ 影山 (1996) 参照

(27) なぜこのようになるかという、地震で加わる力（地震荷重）と風で加わる力（風荷重）は力の加わり方が違うからです。地震は基礎から力が伝わり揺れますが、風は高さ方向...風の揺れは地震と比べてゆっくりになるとのことですので、やっぱり大きく揺れたように感じたかもしれませんね。....そもそも揺れるのですから、それ以上何と申し上げましょうか？もちろん程度問題で、欠陥住宅は大揺れになります。

oshiete.goo.ne.jp/qa/984910.html

いずれも非有界的な動作・行為を指し示す活動動詞であるが、動名詞の形にして、「～ニ/トナル」と結合することによって、その動作・行為が終了の有界に到達し、有界性を有するようになると考えられる。

3.5. <（他動）動名詞ニナル>による受身的意味への転換

日本語では「<動名詞>ニ ナル」という複合形式に「受身」の意味が含意されることがある。いわゆる形式的にはこの能動態「<動名詞>ニナル」が用いられながら、意味的には受身であるといった意味と形式が対応していないパターンが観察できる。

このような意味構造と統語構造が対応していない言語事実はどのように捉えればいいのか。つまり、受身含意のこの「<動名詞>ニナル」構文の成立はどのような意味的、認知的要因によって規定されるものなのだろうか。

ここでは、この問題を取り上げ、構文が反映する事態認識に基づく記述を行うと共にこのような事態を表す場合の意味的条件と認知パターンを明らかにする。

まず、変化動詞「ナル」が他動詞系の動作名詞（漢語系及び和語系の両方を含む）と結びつくと全体で他動詞の受動系相当の「サレル」という意味が含意される。具体的には他動性が高い動詞ほど意味の受動転化が起こりやすい。

本稿では、意味の上から、受動態「～サレル」形式のものを実質的受動文と、そして能動態「<動名詞>ニ／トナル」形式のものを意味的受身文と呼ぶことにする。

なお、ここで触れておかなければならないことは、この能動構文と、受動構文による行為や出来事また結果状態の把握のしかたは認知的に異なるということである。つまり、受動態「サレル」による表現形式は動詞主導の構文構築で、他の形式によるものは認知主導の構文構築であるということである。

「ラレル」による実質的受動文が他動詞その他の意図的動詞から派生した有標識の形式を取っており、その背後に動作主の存在が潜んでいるものであるのに対して、ここで問題にしているような「ラレル」によらない意味的受身文はもともと動作主不在の意味がそのまま単独の形で表されており、金田一の「中相態」により近い無標識の形式である。またこれは何らかの変化を被る対象物が文の主語になることによって意味の中心的役割を担うという特徴が非意図的自動文と受身の両方にあり、他者の影響を受けているかいないかの境界線でしか両者が区別されていないとも言える。したがって「動名詞ニ／トナル」や他の能動態による自動変化表現に、受身の意味が生じやすいのもごく当然のことである。⁹

A：漢語系のもの

(28) が市教育委員会の指導で閉鎖された。…を検討したうえでの公開を指導してい…六年生の担任教諭が個人で開設していた学級紹介などのホームページく」としている。教諭は「閉鎖になったのは残念…」。[/internet.watch.inpress.co.jp/](http://internet.watch.inpress.co.jp/)

(29) 猫虐殺事件の加害者が、昨日8月7日、書類送検から逮捕・起訴になったそうです。…でも法的にも悪いことだと、もっと世間の人に認識して欲しい。起訴されたけれど、まだ終わりじゃないんだ…。[/www.ne.jp/asahi/](http://www.ne.jp/asahi/)

⁹ 蘇（2005）参照

- (30) 除名になったのは、綿貫氏のほか、衆院選で当選した亀井静香、亀井久興…過去にも新党参加などの政治行動で除名された議員も多く、89年以降、そのうち13人…。

/snsi-jee.jp/boyakif//

- (31) わずかの法律違反を鳥居につかまれ、欠所の上、江戸追放になった。それから九年後の赦免まで江戸市民…。とその召使合わせて、三百人の女中が江戸城から追放された。

/www.tosako-kanto.org/

- (32) 小田原城主・大久保加賀守の…おはまは弥三郎が勘当になったと聞かされて、彼を捜しに行くが、途中で金蔵という男にだまされて吉原に…やがて、弥三郎が宗我の息子であり、勘当されたというのは嘘だったことを知り、自分を。

/esaki-ochi.hp.infoseek.co.

上の例を見ると「ナル」が他動詞系の動作名詞と結びつくと全体で他動詞の受動系相当の「サレル」という意味に変質することが分かる。(28)～(32)の例ではいずれも能動文と受動文の交替が許される。(28)「閉鎖になった→閉鎖された」(29)「起訴になった→起訴された」(30)「除名になった→除名された」(31)「追放になった→追放された」(32)「勘当になった→勘当された」。類似の表現に「退学、閉校、停職、罷免、戒告、処分、採用／不採用、除籍、送還、全廃、中止…」などがある。人や物に対する制度的な措置、処分を表す意味的特徴を持つ他動詞系の動作名詞や被害動名詞「犠牲、罷免、排斥…」はだいたいこの構文形式の交替が成立する。言い方を換えれば、「～になる」は処分の意味が含まれる動作性名詞と組み合わせると受動的な意味をおびることがわかる。「処分」の意味が含意される動作名詞がこのタイプの意味受身文になるのはまさしくこの名詞の語彙的性質によるといえる。こういった特徴は上掲の例文のように前文と後文で「<動名詞>ニ/トナル」と「<動名詞>サレル」が交互に用いられるということからも裏付けられよう。

なお、「ナル」が自動詞、他動詞双方の用法を持つ動作性名詞と結びつくと、全体は能動とも受動とも解釈できるような表現となる。以下の2つの例はそのようなタイプであると考えられる。

(33) 雪印乳業は21工場が操業停止となった。

操業停止した。

操業停止された

(34) 回収や販売中止になったら大損害をこうむってしまう。

販売中止したら

販売中止されたら

これは「動名詞＋サレル」が「ナル」に言い換えられることによって受身の要素が締め出され、捨象されたものとして、「結果状態」の意味が派生したとも考えられる。

B：和語系のもの

漢語系のものと同じく、和語系の他動詞の連用（名詞）形が「ナル」と結びつき、他動性が失われる表現もよく見られる。以下がその例である。

(35) 直径は5～7センチで、1センチくらいの厚さで輪切りにされた

真っ黒い色の、ところどころにクルミらしい粒が入った。

…ところであの黒い輪切りになった物体はいったいなんだったんだろう。/www9.ocn.ne.jp/

(36) 日本政府の戦死者への謝罪の仕方…出張先で缶コーヒーを買いに行き、交通事故に会った人が会社を訴えたら労災扱いに

なったとも聴きます。…方も戦死扱いにされたようです。ただし、自決された方全員が戦死扱いになったとは思って

…/tseiso.hp.infoseek.co.jp/

(37) 碑の側の立て札によると「生け捕りになった重衡を、土地の

人が哀れんで濁り酒をすすめたところ…の駿馬「夜目無月毛」を奪って逃亡するという不幸によって、不覚にも生け捕りにされたのである。/www.suma-kankokyokai.gr.jp/

(38)「えっちゃんのせんそう」は、中国のハルビン…を歩むことになった。この道中に置き去りになった子どもたちが、いわゆる中国残留孤児となったのである。…が、大多数の市民は、終戦の翌年になっても日本に帰れず、大陸に置き去りにされた。/www.cinema-indies.co.jp/

(39) 北海道新幹線 10【4 時間以内】 … 360km 試作車がちょうどいい燃料になって、これまで何度も繰り返された議論が、また燃え上がっちゃった。もちろんまた同じ事の繰り返しになっただけだったけど。/sinkansen.s53.xrea.com/

(35) ~ (39) の「動名詞ニ/トナル」はそれぞれ文脈によって <(物事や人)が---される>という受動態に言い換えられ、受動的な意味になる。¹⁰

これらの用法は実質的变化の用法とはかなり異なっている。「~ニサレル」に言い換えても、その表す意味は殆ど変わらない。前に触れた漢語形動作名詞の「閉鎖になる」「起訴となる」「除名となる」(下線部)などはそうなった背後に人や制度など何らかの媒介があってそうさせたことを示しているのに対して、この場合は直接的、無媒介的なものであるという違いがこれらの例文を通じて見てとれる。

(35) ~ (39) 文には前後の文の中でその両文が対立する形(受身と能動)で現れている。むろん能動形の「ナル」は受身の意味に解釈できる。言い換えれば、意味の上から「サレル」による実質受動文も「ニ/トナル」による意味受身文もそれぞれ表す意味は同じ

¹⁰ ちなみに英語では「薄切り」「固ゆで」「四つ割り」のような状態を表す複合語は thin-sliced, hard-boiled, four-devided のように「-ed」による受動化が動詞の意味変化を明示している

であることになる。違いは話し手の事柄に対する認知のしかた、すなわち認知主導の構文構築か動詞主導の構文構築かである。「サレル」構文は「人が外部から働きかけた結果」というニュアンスを強く表現しているのに対して、「～ニ／トナル」構文は「自分の意思とは関係なしに行われた結果」や「人が働きかけた結果というより自然そうになった」というニュアンスを表している。因みに、「サレル」構文においては下例のように、必要なときに動作主を文脈中に明示できるのに対して、「ニ／トナル」構文では殆どの場合それが出来ない。明示すると非文となる。

(40) 植民地時代、統治者に母語の使用が禁止された。

×植民地時代、統治者に母語の使用が禁止になった。

日本語の、この自動変化結果構文は受動結果構文によって動機付けられていると考えられる。下の例(41)を通じて、両者にはその形式(対象主語補部の存在)において統語的な関連性を認めることができる。一方、「受身及び結果」と言う構文的意味上の関連性も存在する。そこで、状況変化(結果構文)を受動変化(受身構文)からのメタファー的拡張と見なすことで、前者が後者に動機付けられていると捉えることができ、構文間の類似性に働く直感を説明できる。

(41) 2007年7月11日...以前にも山口や名古屋で生活保護を打ち切られ餓死する事件がありました。これらは明らかな行政の怠慢でしょう。...福岡市の職員が、打ち切りになった生活保護費を 継続しているように操作し、4年半に渡って3100万円あまりを着服している。sadakom.wordpress.com

3.6. 中国語との対応関係

日本語で「<変化動名詞>ニ/トナル」のような二重変化表現が使用される事項が中国語ではすべて普通の能動態の動詞文で対応していることに注目したい。因みに以下の(42)～(46)の日本語の文は中国語ではすべて普通の能動文が対応している。(括弧内の中国語訳はいずれも、蘇琦編譯<日本社會剪影>による)

(42) ある CF が放映一週間で中止になった。

(電視有一部廣告片僅播放了一個星期就中止了)

(43) 日本人がさらに長生きになっていることが判明した。

(調查表明、日本人更加長壽了)

(44) 放送時間と重なったため、修道院でのお祈りの時間が変更になった。

(因為同播出時間衝突、修道院調整了祈禱時間)

(45) 春闘の賃上げが4年ぶりに5%割れになる。

(春闘調薪、4年來首次降到5%以下)

(46) 3年12月末における一世帯あたりの平均貯蓄高は、1465万円
で、前年に比べ7.6%の増加となった。

(1991年12月底的每戶平均儲蓄額為1465萬圓、比前一年增長了7.6%)

日本語の文にはこういった二重変化表現が多いことが目につく。

中国語は、さまざまな形態論的考察や統語論的考察に基づき、英語と同じく「<スル>的な言語」に位置づけられている¹¹。また、先行研究からしても、中国語よりも日本語では変化のできごとがもっとも活発に結果複合語の形で表現されるのが明らかになっている。

日本語では無標の動詞能動態「～がV(変化自動詞)」という表現より「～が<動名詞>ニナル」という表現が好まれ、中国語では好

¹¹ 中川(1992) P3～21 参照

みが逆になるというに表現上の特徴が見られる。ここでも、中国語の「N1 V」「N1 V N2」に対して、日本語の「Nが<動名詞>ニナル」「N1が N2Vニナル」という図式になるのは興味深い問題である。

4、終わりに

以上の考察で日本語の“XガY<動名詞>ニ/トナル”形式の変化自動詞文は文中の要素とのかかわりからいろいろな類型に分けられることが分かった。そしてそれぞれの文の特徴を詳しく見ることによって、述語動詞「ナル」は変化の意味を表す実質的用法と、機能動詞としての形式的用法、そして話し手の心的態度を意味としての用法という具合に、「命題的意味」「文法的意味」「ムード的意味」を合わせ持っていることも解明できた。

認知文法の基本概念の一つには、形式の相違は意味（あるいは語用論）の相違を含意する、つまり形式が異なれば意味も異なるという考えがある。たとえ描かれる客観的な理論関係が同一であっても、知的意味ないし解釈のレベルでは異なると考えられる。日本語のこの「XガV」「Xガ<動名詞>ニ/トナル」のようなペアも形式が異なることから、知的意味ないし解釈において異なるものと分析される。この意味において統語的特徴と意味的特徴が一致しない「<動名詞>ニ/トナル」構文についての記述と分析は意味と統語のインターフェイスに関して重要な論理的意味合いを持っていると思われる。

参考文献

- 池上嘉彦（1981）『「する」と「なる」の言語学—言語と文化のタイプロジーへの試論』大修館書店
- 池上嘉彦他（2009）『自然な日本語を教えるために』ひつじ書房
- 影山太郎（1996）『動詞意味論—言語と認知の接点』くろしお出版
- 影山太郎・由本洋子（1997）『語形成と概念構造』研究社

- 影山太郎（1999）『形態論と意味』くろしお出版
- 影山太郎（2001）『動詞の意味と構文』大修館書店
- 影山太郎（2005）「結果構文・結果複合動詞の産出と解釈」『現代形態論の潮流』大石強他編　くろしお出版
- 小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』
- 定延利之（2000）『認知言語論』大修館書店
- 塩谷英一郎（2003）「認知から見た言語の構造と機能」辻幸夫編『認知言語学への招待』大修館書店
- 蘇文郎（2001）「変化表現についての一考察」『東呉日本語教育学報』第24期
- 蘇文郎（2005）「変化構文における意味の受動化現象をめぐって」『台湾日本語教育論文集』第9号
- 蘇文郎（2006）「変化他動詞文「XがYヲZ（連用語）スル」の諸相についての研究」『東呉外語学報』第22期
- 蘇琦（1993）編譯『日本社会剪影』鴻儒堂出版社
- 辻幸夫編（2002）『認知言語学　キーワード事典』研究社
- 寺村秀夫（1976）「「ナル」表現と「スル」表現—日英態表現の比較」『寺村秀夫論文集Ⅱ』くろしお出版
- 中川正之（1992）「類型論から見た中国語・日本語・英語」、大河内康憲編『日本語と中国語の対照研究論文集（上）』角川書店
- 長谷川信子（2001）『生成日本語学入門』大修館書店
- 本多啓（2005）『アフォーダシスの認知意味論』東京大学出版会
- 村木新次郎（1991）『日本語動詞の諸相』ひつじ書房
- 吉田妙子（2007）「テ形再考—生成文法の観点によるテ形の用法分類」『政大日本研究』第4号